

障害への理解を深めるために

～県内の教育機関で初めての障害平等研修（DET）の実施～

平成29年1月16日（月）に、県内でDETを推進する「DET 群馬」から、いずれも体に障害のある高橋宜隆さん、細野直久さん、飯島邦敏さんの3名が進行役（ファシリテーター）として来校され、「障害とは？」という問いを中心に、障害を本人の問題としてのみでなく、社会全体から捉える視点を学ぶためにDET研修が実施されました。



障害平等研修(Disability Equality Training:DET)とは.

DET は障害者差別解消法を推進するための研修です。障害者の社会参加や多様性に基づいた共生社会を創ることを目的として、障害者自身がファシリテーターとなって進めるワークショップ型の研修です。対話を通じた「発見」を積み重ねていくなかで、差別や排除など、社会のなかにある様々な「障害」を見抜く力を獲得し、それらを解決していくための行動を形成します。

障害平等研修フォーラムHPより



今回の研修は、県内の教育機関としては初めての取組となりました。研修は、ファシリテーターとの対話や視覚教材とグループワークを活用したワークショップ形式で進められます。今回の研修では、障害に対する差別や偏見に関する映像を視聴し、どんなところに問題があるか、など、具体的な問題に対して議論を深めました。

また、ファシリテーターは障害当事者の方が行ってくださいます。今回の研修では、車いすユーザーの3人の方が、生徒の間に入って、話合いが深まるよう、支援を行っていただきました。

こうした研修を通じて「障害は障害者が努力して解決すべき」から「障害は周りの環境をみんなに変えていくことで解決していける」と生徒の意識が変わっていきました。

最後に、これからの社会への提言として、「自分に何ができるか」を考え、発表し、研修が終了しました。大きな事でなくても、誰かにしてもらうのではなく、自らができることを考え、行動すること。障害を他人事ではなく自分のこととして考えること。そうしたことが、誰もが暮らしやすい地域社会を作るために必要であると感じた研修でした。

